

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立西成高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実 生徒の自立支援
評価指標	1 中途退学率の低減 2 学校生活満足度の向上 3 授業アンケートと学校教育自己診断における授業への満足度の向上
計画名	西成高校「学びと支援の空間づくり」PJ

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>学校目標：「学びと支援の新たな結合による第三の教育の推進」（EPSの進化と深化）</p> <p>中期目標：① 学習力をエンパワーする</p> <p>学習力向上グループ（全員参加）による学習力向上の取組みにより、生徒を授業で動機付ける。「授業力」向上から「学習力」へ着目点を変えることで、生徒に寄り添った「多面的な評価方法」を開発し、エンパワーメントスクールとしての最大の目標、高校卒業と市民としてのチカラを育成する。</p>
事業目標	<p>エンパワーメントスクールの中で唯一「知的障がい生徒自立支援コース」を併せ持つ本校は、他のEPSと違い、療育手帳所持者および支援学級在籍経験者が学年の約3分の1を占める状況となっている。従来からの生徒に寄り添った、人権・支援・キャリア教育の取組みは全国でも有数の取組みをしていると自負しているところである。しかしながら、学習面に至っては工夫や進化がまだ十分に至っていない弱みでもある。そのことが、中途退学率の減少が期待ほど実現できない理由となっていると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の学習力を伸ばすため、ICTによる教育活動のハードルを下げる。 ○ 学校情報の共有化の促進 ○ 生徒の居場所スペースを確保し、自学するスペースとする。
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教室持込み用タブレット端末（教員教材呈示用） 69台 ○ USB変換アダプター 69台 ○ EZ Cast Pro LAN 22台 <p>以上3点については既存のネット環境との調整作業が遅れたため購入のみで活用に至らず。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 渡り廊下居場所スペース用 机4台、椅子8脚
取組みの 主担・実施者	ICT環境の整備については広報企画課、授業・研修関係については教務学習課が担当 実施者は教員全体
本年度の	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先進的取組校への視察継続

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣小中学校と連携し、小中学校との授業研究や指導の研究を実施 ○ 教科横断型の学習力向上グループによる授業研究 ○ 公開授業 ○ 年3回のアンケート継続 ○ 次年度に向けた取組みのまとめ ★ 3か年の取組みのまとめと次の3か年の取組みの検討・決定
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校教育自己診断アンケートの「授業はよくわかる」の項目の肯定率を80%以上とする。 ② 中途退学防止について 中退率3%未満(2.6%)を達成する。 ③ 西成高校に入学してよかった 肯定感80%を達成する。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校教育自己診断アンケートにおける「授業はよくわかる」の肯定的回答 平成28年度 51%⇒令和元年度 82.9% (1年 89.7%、2年 73.5%、3年 85.5%) (◎) ② 中退率(令和元年度当初在籍数 568名) 平成28年度末 8.6%⇒ 令和元年度末 5.3% ・(指標には届かなかったものの入学生徒の状況が変化していく中、大きく改善) (○) ③ 学校教育自己診断における「西成高校に入学してよかった」の肯定感 平成28年度 48%⇒令和元年度 89.2% (1年 90.3%、2年 89.1%、3年 88.2%) (◎)
事業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ この事業を活用した3年間で、生徒の授業に対する満足度や学校生活に対する満足度が大幅に向上した。これは学習力向上グループを中心としたメンバーによる研究授業や相互授業見学、また「学びあい通信」を活用した技能伝承により、授業改善が校内で大きく進んだためである。 ○ 校舎渡り廊下に設けたハイテーブル・ハイチェアでは、考査前に一人やグループで勉強する生徒が増え、今年度新たに2セットを校内予算で追加購入・設置を行った。 ○ 本校は、エンパワメントスクールであるが、学び直しを行う1年生から本格的な高校生の勉強が始まる2年生の間で起こる、高2ギャップをどう埋めるかが課題となっている。今後も生徒にとって分かりやすい授業づくりをめざして、引き続き授業改善に取り組んでいきたい。 ○ 学校満足度の向上に見られる生徒の「自信の回復」が、生徒の大人としての自立に大きく寄与している。